

参議院選挙の結果について

2022年7月11日 日本共産党中央委員会常任幹部会

7月10日投開票された参議院選挙で、日本共産党にご支持をいただいた有権者のみなさん、酷暑のもとで奮闘していただいた支持者、後援会員、サポーター、党員のみなさんに心からの感謝を申し上げます。

(1)

日本共産党は、選挙区選挙では、唯一の現職区だった東京選挙区で、山添拓候補の再選をかちとることができました。東京の党と後援会の大奮闘、全国からの支援によって、宝の議席を守り抜いたことは、大きな喜びです。

若い世代、市民のボランティア、サポーターのみなさんが、その創意性・自発性を発揮してこのたたかいに参加し、山添候補が無党派層のなかで最も多くの得票を獲得したことも、今後生きるとりくみだと考えます。

沖縄選挙区で、大激戦を制して「オール沖縄」の伊ハ洋一候補の議席を守り抜くことができたことは、沖縄の今後を展望しても重要な勝利です。

(2)

比例代表選挙で、日本共産党は、「650万票、10%以上、5議席絶対確保」を目標にたたかいましたが、361万8千票、得票率6・8%にとどまり、改選5議席から3議席への後退という、たいへんに残念な結果となりました。常任幹部会として、こうした結果となったことに対して、責任を深く痛感しています。

常任幹部会の指導責任の問題として、次の2つの点を率直にのべたいと思います。

一つは、全国のみなさんに大奮闘していただきましたが、勝利に必要な規模と速度に運動を広げ切るうえでの指導的イニシアチブを十分に果たせなかったということです。参議院選挙で、わが党がとりくんだ対話の最終の到達点は860万にとどまり、支持拡大の到達点は650万と支持拡大目標の47%にとどまりました。総選挙の最終の到達点と比較しても、対話・支持拡大とも8割台にとどまりました。

いま一つは、その根本にある自力をつけるとりくみです。昨年11月の4中総決定で、私たちは、党員拡大でも、「しんぶん赤旗」読者拡大でも、前回参院選時の回復・突破を目標に掲げて奮闘しました。しかし、党勢は、前回参院選時比で、党員92・5%、日刊紙読者92・0%、日曜版読者91・4%にとどまりました。世代的継承のとりくみや、「綱領を学びながらたたかう」という点での新たな努力も行われましたが、なお、自力をつけるとりくみは、質量ともに、その立ち遅れを打開できていません。

私たちは、今回の参院選の最大の教訓は、ここにあると考えています。どうやってこの弱点を打開していくか。全党のみなさんの知恵と経験に学びたいと思います。どうか率直なご意見・ご提案をお寄せください。私たちは、全党のみなさんと力をあわせて、強く大きな党をつくるために、新たな決意で全力をつくします。

選挙戦のなかで、若い世代のみなさんが、大きな力を発揮し、生き生きと活動に参加したことは大きな希望です。全国のみなさん。今回の悔しい結果を新たなバネとして、どんな情勢のもとでも前進できる質量ともに強い党をつくろうではありませんか。

(3)

選挙戦での日本共産党の政策的な訴えは、国民の願いに立脚したものであり、自民・公明・維新など平和と暮らしを壊す「翼賛勢力」を追い詰め、訴えが伝わったところでは共感が広がりました。

平和をめぐっては、「軍事費2倍」、「敵基地攻撃能力」の保有、「核抑止力」強化、「9条を変えろ」などの大合唱に正面から立ち向かい、憲法9条を生かして東アジアに平和をつくる「外交ビジョン」を対案として訴えてたたかいました。

暮らしの問題では、物価高騰からどうやって暮らしを守るかが大きな争点になるもつで、新自由主義を転換し「やさしく強い経済」をつくる5つの提案を掲げ、消費税5%への減税・インボイスの中止、大企業の内部留保への時限的な課税による賃上げの促進、年金削減中止・学費半額・給食費ゼロ、気候危機打開、ジェンダー平等などの一連の政策に対して、期待が広がりました。

わが党が訴えた政策は、どれも国民の切実な願いであり、国政の熱い焦点となるものばかりです。公約実現のために、全力をあげましょう。

とりわけ9条改憲を許さないたたかいは、待ったなしの重大課題となっています。岸田首相は選挙後、「できるだけ早く(改憲)発議をしたい」と公言しました。党創立100年、平和を守り抜く党の真価を発揮すべきときです。このたたかいの帰趨は、国民世論にかかっています。海外での武力行使への一切の制約を取り払う9条改憲を許すなとの一点で、国民的な大運動をおこし、9条改憲に反対する国民的多数派をつくる新たなたたかいに立ち上がることを、心から呼びかけます。

あらゆる分野で国民の願いを実現するたたかいの先頭にたち、それと一体に、強く大きな党をつくり、次の機会には必ず雪辱を果たそうではありませんか。



当選確実の報道を受け、支援者と喜び合う山添拓さん
= 10日、東京都千代田区



当選を確実にし、支援者らとバンザイする、イハ洋一さん
(最前列左から3人目) = 10日、那覇市

憲法9条、日本の平和と国民の暮らしを守る たたかいに新たな決意でとりくみます

参議院選挙の結果について

2022年7月11日 日本共産党静岡県委員会

「しんぶん赤旗」読者のみなさんの選挙戦へのご支援、ご協力に心から感謝を申し上げます。

選挙戦の結果と、党の見解は、今日の新聞の紙面に掲載しましたので、お読みください。

静岡県の選挙結果は、「下表」の通りです。比例代表選挙では、昨年の総選挙との対比で得票数と得票率で伸ばすことができず。選挙区選挙（定数2）では、鈴木ちかが昨年10月の補欠選挙と、3年前の参院選挙の対比とともに得票数・率ともに伸ばしました。

今回の参院選は、ロシアによるウクライナ侵略に便乗して一気に強まった「軍備拡大」、憲法9条改定の流れのなかで、わが党は、「大軍拡ではなく外交で平和を」を掲げて、有権者のなかで宣伝・対話をすすめました。

ウクライナ危機も影響しての物価高騰が強まるもとで、国民に「やさしく強い経済」の政策を打ち出して政府に実現を迫り、選挙戦でも訴えつづけました。とくに、きびしい暮らし、ジェンダー平等や気候危機打開などで、若い世代、現役世代などから、かつてない共感や期待の声がたくさん寄せられました。

ひきつづき、掲げた公約実現のために全力をつくし、新たな決意と構えで党の自力づくりにとりくみます。

【 比例代表 】

政党	共産党	立憲民主	れいわ	社民	自民党	公明党	日本維新	国民民主	
得票数	92,831	157,665	70,003	32,489	619,033	175,382	177,320	107,440	
得票率%	6.01	10.20	4.53	2.10	40.05	11.35	11.47	6.95	
前回19年参院選比較	得票数	120,748	219,291	59,677	16,201	581,038	184,099	77,466	192,540
	増減	-27,917	-61,626	10,326	16,288	37,995	-8,717	99,854	-85,100
	対比%	76.88	71.90	117.30	200.54	106.54	95.27	228.90	55.80
	前回得票率	8.05	14.62	3.98	1.08	38.75	12.28	5.17	12.84
	得票率増減	-2.05	-4.42	0.55	1.02	1.30	-0.93	6.31	-5.89
21年衆院選比較	得票数	90,824	340,184	58,690	20,522	639,005	184,221	158,381	114,343
	増減	2,007	-182,519	11,313	11,967	-19,972	-8,839	18,939	-6,903
	対比%	102.21	46.35	119.28	158.31	96.87	95.20	111.96	93.96

【 選挙区 】

政党	共産党	立憲民主	国民民主	自民党	無所属		
候補者	鈴木ちか	—	—	若林洋平	山崎真之輔	平山佐知子	
得票	137,835	—	—	622,141	250,391	446,185	
得票率%	8.76	—	—	39.54	15.91	28.36	
前回19年参院選比較	候補者	鈴木ちか	徳川家広	榛葉賀津也	牧野京夫	—	—
	得票数	136,623	301,895	445,866	585,271	—	—
	増減	1,212	—	—	36,870	—	—
	対比%	100.89	—	—	106.30	—	—
21年参院選補欠選挙比較	候補者	鈴木ちか	—	—	若林洋平	山崎真之輔	—
	得票数	116,554	—	—	602,780	650,789	—
	増減	21,281	—	—	19,361	-400,398	—
	対比%	118.26	—	—	103.21	38.47	—

